

救命救急初療期にある患者の家族への代理意思決定支援の内容

森 一恵^{*1)}、藤浪千種¹⁾、桑原美香²⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学、²⁾聖隷三方原病院

【目的】

救命救急初療期にある患者の家族が、患者の治療方針を決定する代理意思決定に対し、看護師が実施している支援を明らかにする。

【方法】

1. 対象：A 県西部地域の 2 次および 3 次救急対応施設に勤務している看護師であり、臨床経験 3 年以上かつ救命救急外来における勤務経験を有する看護師
2. 調査期間：2016 年 7 月～2016 年 9 月
3. データ収集方法：インタビューガイドを用いた半構造化面接を実施した。
4. 分析方法：Krippendorff の内容分析を用い、意味内容に沿って抽出したコードをカテゴリー化し、分析は複数の研究者で相互に確認し実施した。
5. 倫理的配慮：聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認（承認番号：16006）を得た。

【結果】

1. 対象者の概要：対象者は 8 名得られ、性別は男性 2 名・女性 6 名、平均年齢は 33.0 ± 3.9 歳、看護師経験は 12.2 ± 3.2 年、救急外来勤務年数は 5.3 ± 4.1 年であった。
2. 看護師が家族に対し実施していた代理意思決定支援：分析の結果、47 コードが抽出され、10 サブカテゴリー、5 カテゴリーが得られた。看護師が行う代理意思決定支援には、《家族が患者の意思を尊重できるように働きかける》《医療処置を行い家族が代理意思決定できるように働きかける》という、患者の状況を家族が理解することを支援する 2 カテゴリーと、《限られた時間で代理意思決定する家族に寄り添い支持する》という、代理意思決定前だけでなく決定後も継続的に家族に関わる 1 カテゴリーが抽出された。また、《ER のチームで協働する》《看護師のピアサポートを行い意思決定支援を向上させる》といった、看護師間・ER のチームで協働しながら家族の代理意思決定を支援する 2 カテゴリーが抽出された。

【考察】

看護師は、多職種との協働や看護チームにおける支援を受けながら、家族が患者の状況を理解し納得した代理意思決定ができるように、患者の意思を尊重した医療処置を通して、限られた時間の中で家族に寄り添いその決定を支持していた。また、看護師は、家族の代理意思決定支援と並行して代理意思決定支援を向上させる取り組みを実施しており、主な手段としてピアサポートを活用していた。なお、ピアサポートは代理意思決定支援に伴い看護師が感じる精神的負担やジレンマなどの緩和にも有用であると考えられた。

結論：

1. 看護師は、多職種との協働や看護チームにおける支援を受けながら家族の代理意思決定支援を行っていた。
2. 看護師は、家族が患者の状況を理解し納得した代理意思決定ができるように、患者の意思を尊重した医療処置を通して、限られた時間の中で家族に寄り添いその決定を支持していた。
3. 看護師は家族の意思決定の支援のために、看護師同士でピアサポートを行い、様々な葛藤に対処しようとしていた。

学会発表：第 13 回日本クリティカルケア看護学会学術集会（2017 年 6 月 10-11 日）

論文発表：せいいい看護学会誌への投稿準備中